御獄神社　・・・

「服部半蔵」と聞いて、何を連想するかによって、その人の世代がおおよそ見当つくのではないでしょうか。ある人にとっては千葉真一でしょうし、また別の人にとっては香取慎吾の「ハットリくん」かもしれません。

筆者にとっては、一連の白戸三平漫画であり、どちらかというと、権力側の忍者の首領という、敵役のイメージが強く残っています。

脱線ついでに、忍者で思い出すのは、「真田十勇士」であり、「隠密剣士」であり、アニメ「風のフジ丸」の最後に放映された、初見良昭と本間千代子による「忍法千一夜」などは食い入るように見入った記憶があります。

さて、今回ご紹介するのは、その服部半蔵が奉納したという、練馬区内唯一の石造りの「仁王像」を祀った「御嶽（おんたけ）神社」です。

さかえ幼稚園の南西に１５０ｍほど行くと、高松小学校がありますが、その手前にあるのが「御嶽神社」です。名前からも伺えるように、木曽御嶽神社の祭神である国常立尊（くにのとこたちのみこと）・大己貴命（おおなむちのみこと：大黒様のこと）・少彦名命（すくなひこなのみこと）の分霊を勧請したものです。

ここで、微妙な文字遣いに触れておきますと、もっとも貴い神を尊といい、それ以外は命といいます。読み方はともに「みこと」です。

江戸時代になると、富士大山講と並んで御嶽講も盛んになりました。

これは、天明の頃（１７８１～８８）に新しい道が開けて御嶽山登拝が一般に開放されたことと、一山行者という修験者が、江戸を中心に御嶽講をまとめ、信仰を広めたからだと言われています。

お目当ての仁王像は鳥居のすぐ左脇にあります。阿形と吽形の２体で、いずれも高さが１ｍ余。阿形像の右手首が欠損しているのは残念ですが、なかなか迫力のある見事な石像です。

背面には、「宝永三年十二月廿日大垣氏服部半蔵藤原幸隆」の銘が見えますが、吽形像の年代を記した箇所が風雨によって朽ちたというより、誰かが意図的に削ったのではないかと思える跡があり、少々謎めいて気になりました。宝永三年とは１７０６年のことです。

この仁王像は、元々愛染院の末寺で、さかえ幼稚園近くにあったとされる高松（こうしょう）寺に奉納されたものですが、明治初めに廃寺となったため御嶽神社に移されたとのことです。

当時、練馬周辺はほとんど幕府直轄地の天領だったのですが、橋戸村（大泉町：大泉学園駅周辺をイメージしないで下さい。清水山周辺です。）は数少ない私有地で、服部半蔵率いる伊賀組の所領地でした。おそらく四谷の屋敷との往来に際し、その守護を祈念してのことと想像します。

同様に、伊賀衆が奉納した水盤と鳥居が氷川神社（大泉町５－１５）境内にも残っています。

ところで、境内には、幹の太さが１ｍを越えるサカキとモッコクがあるのには驚きました。

前者はさすがに「ねりまの名木」にも選ばれていますが、後者もなかなかのものです。モッコクはとても成長が遅くて大きくならない樹木です。それが、この地にさりげなく数百年の時を刻んで生き続けていることを、大変いとおしく思いました。